

大塚商会在考える 3D設計適用・3Dデータ活用の『ベストプラクティス』

大塚商会が考える 3D設計適用・3Dデータ活用の『ベストプラクティス』

■ 3D設計の効果とは・・・



3D設計の効果を、効率良く、最大限得るためには、運用に関する「ノウハウ」が不可欠

私たちは、豊富な3DCAD導入実績により培った「ノウハウ」をもとに、効果的な運用方法を『ベストプラクティス』というテンプレートとしてまとめました。

■ 大塚商会の考える3D設計の『ベストプラクティス』とは・・・

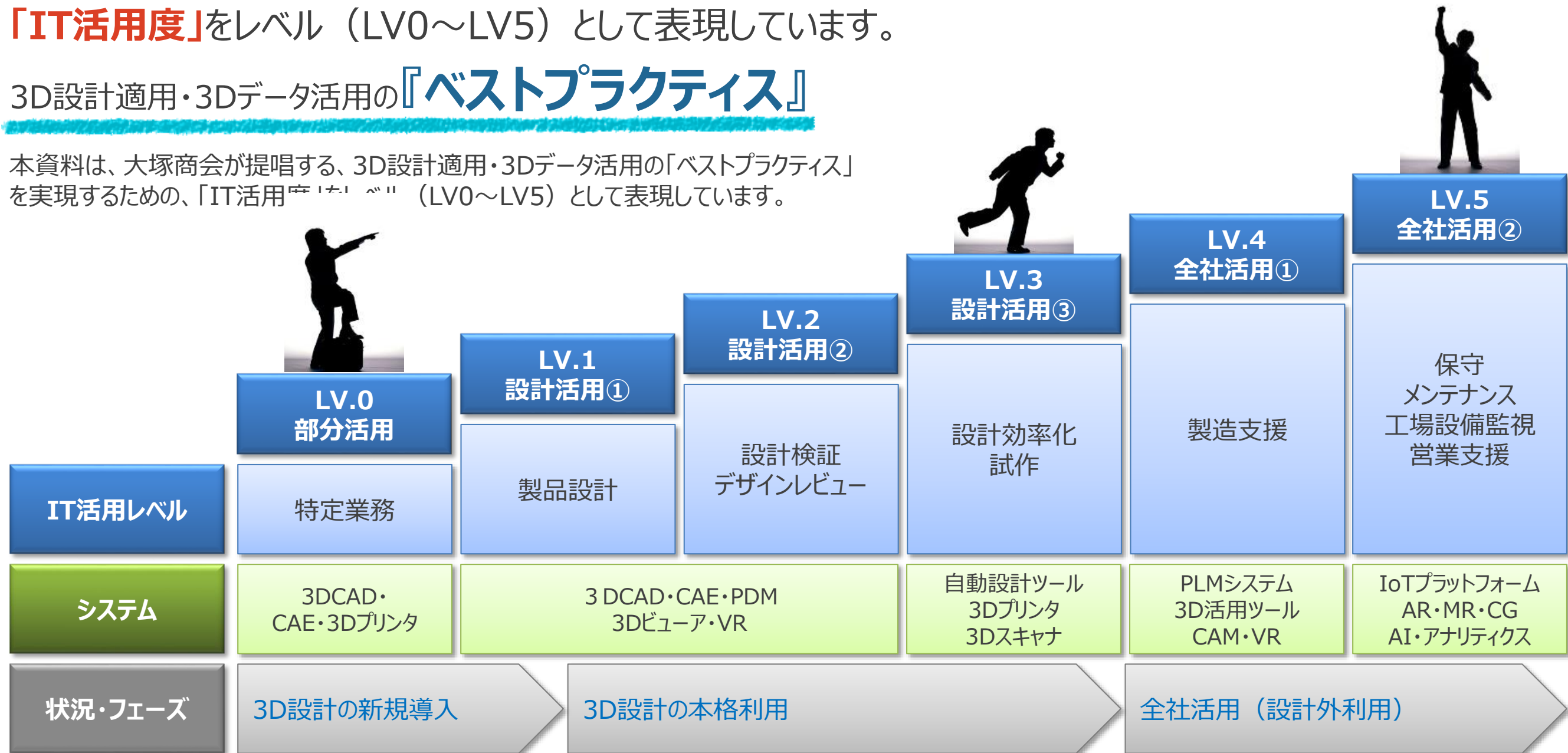
- ◆ 3D設計のメリットを理解した上で、その範囲での **最大限の効果** を得ること
- ◆ 3DCADの機能をフル活用して、設計完了時点で **多くの設計・製造要件を満たす** こと
- ◆ 3DCADの特性を理解した上で、自社にとって **効果の高い運用方法を身に付ける** こと

大塚商会が考える 3D設計適用・3Dデータ活用 レベル

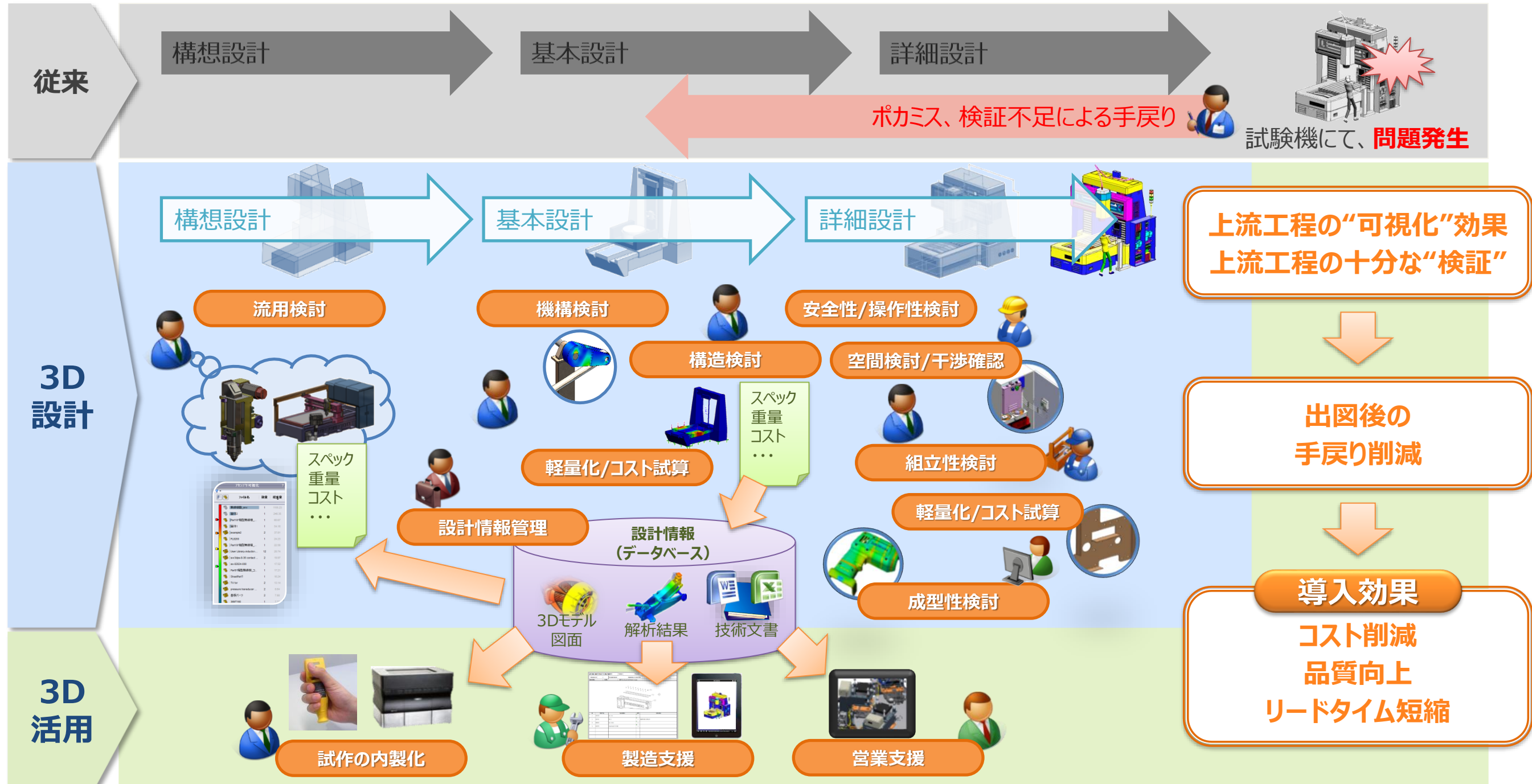
大塚商会が考える、3D設計適用・3Dデータ活用の「ベストプラクティス」を実現するための、「**IT活用度**」をレベル（LV0～LV5）として表現しています。

3D設計適用・3Dデータ活用の『ベストプラクティス』

本資料は、大塚商会が提唱する、3D設計適用・3Dデータ活用の「ベストプラクティス」を実現するための、「IT活用度レベル」（LV0～LV5）として表現しています。



3D設計適用・3Dデータ活用の『ベストプラクティス』のイメージ



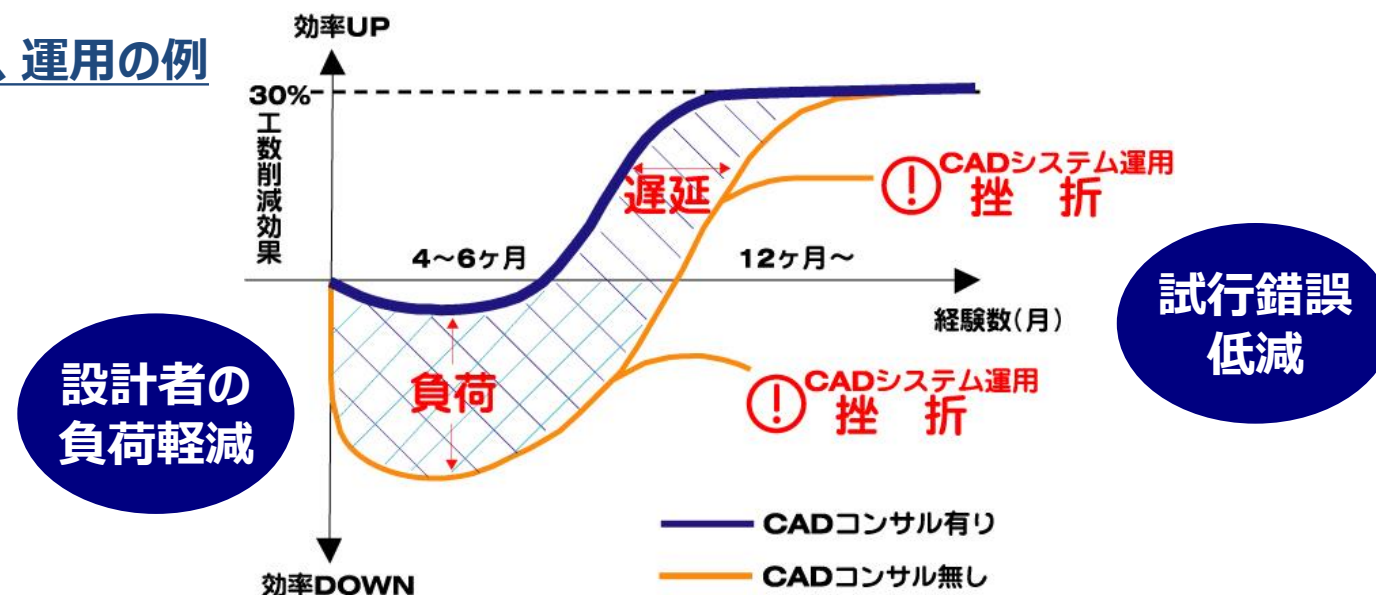
3D設計適用・3Dデータ活用の ベストプラクティス適用に必要な取り組み

■ ベストプラクティス適用に必要な取り組みは…



■ コンサルティングサービスを受けてノウハウを会得した場合と、そうでない場合の違い

3D設計の環境構築、運用の例



3D設計・3Dデータ活用のベストプラクティス適用には、コンサルティングサービスが有効です！
大塚商会のノウハウで早期に、確実に、IT活用レベルがアップできます！